

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3372201024		
法人名	有限会社敬仁会		
事業所名	グループホーム万富の家		
所在地	岡山県岡山市東区瀬戸町万富1908-1		
自己評価作成日	平成30年2月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=3372201024-008&PrefCd=33&Versi
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート		
所在地	岡山県岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO会館		
訪問調査日	平成30年3月3日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一日を元気ある生活にしてもらうために一人一人の声をしっかり聞いて個々の生活を大切に支援援助する。施設内でおこなえる個々にあった生活リハビリを転倒防止、筋力維持につなげ生活の質を向上できるように目指す。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

いつ訪問しても歌声が響いていたリビングが、利用者の重度化に伴い一時その雰囲気が鎮まっていたが、1年ぶりに訪問させてもらって、以前の活気が蘇り、このホームらしさが復活していた。主役(リーダー格)は交代していたがリビングは以前のように歌声で鳴り響いていた。演歌を次々と歌う人に先導されて、利用者も職員も一緒に歌いながら楽しく過ごしていた。今年度は開設当初からの利用者の看取りを行なうという大きな出来事があり、職員も初めての貴重な経験をした。グループホーム「万富の郷」もすぐ近くにあり、社長も頻りにホームを訪れ利用者と話をしてコミュニケーションを取り合っている。今日もソファで利用者と話し込んでいる姿を見かけた。息子さんもホームの職員であり、勤続年数も長いと聞いており、一つの家族のような大きな愛に包まれたホームだと思った。今年は特に職員の研修に力を入れており、年度目標にも掲げてスキルアップを目指している。これからも飛躍し続けて下さい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホールに記載し、また会議等で話す機会を設け、より理念に沿うように仕事をしている。	施設理念・方針の5項目をリビングに掲示して職員間で意識付けをすると共に、今年度の目標を「研修に行きましょう」に定め、積極的に勉強する機会を設け職員のスキルアップを目指している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	イベントには地域の方にボランティアの協力をして頂いている。また地区の方とも親しく話ができている。	毎年公民館の文化祭に作品を出展しており、今年は手作りかごやペン立て等の利用者の手作り作品を展示した。ホームの夏祭りには町内会に協力依頼をしてボランティアに来てもらい地域交流をしたり、クリスマス会には地域の子供会の訪問があり、利用者と一緒に触れ合っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地区文化祭(万富公民館)に参加し出品展示見学に行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日頃の利用者の活動状況等を報告している。行事などへの参加、ボランティア依頼など地域に密着した活動、交流を行っている。	直ぐ近くにある「万富の郷」と合同で2ヶ月に1回運営推進会議を開催しており、参加者は地域包括、町内会長、民生委員、家族、社長等のメンバーで構成されている。地域の人から移動販売の情報をお願いしたりと、お互いに情報交換をしながら話し合っている。	運営推進会議の記録(議事録)はあるが、記載内容が少なく少し物足りない。参加者の氏名や意見交換の内容も毎回きちんと記録に残すようにしたい。家族への参加の呼びかけにも工夫が欲しい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	包括支援センター担当者に現場の状況を理解していただきアドバイス等協力を得ている。	市の実地指導があり、運営推進会議の議事録等の掲示場所に関するアドバイスがあり、早速適切な場所に掲示した。最近ではトロミ調整食品に関する件で市の担当者に問い合わせをして回答をいただく等、何かあれば相談をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員が対応方法を徹底し、自由な生活を支援している。	玄関の施錠はしていない。不意の外出をする人もおり、ホーム周辺を歩いているのを見つけ連れて帰った事もあるので、見守りを強化し利用者の行動に注意を払っている。「帰りたい」と、出口を探す行動が2週間に1回位出る人がいるが、しばらくすると諦めてくれる人もいるとの聞いた。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	身体にできるあざ、傷を発見したとき職員で確認しあい原因等話し合い防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	他事業所の成年後見人の実例を聞き制度の理解に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時施設の方針などを話し対応可能な範囲について丁寧に時間をかけて説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者家族に月一度「万富の家便り」で近況をお知らせしている。電話、面会時にコミュニケーションを図り意見を頂いている。	毎月「万富の家たより」を発行し、各担当者が近況報告を記した手書きの手紙を添えて家族に送付している。面会時に状況報告をしたり意見や要望を聞くようにしているが、遠方の家族には必要に応じて電話で連絡を取り合っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から職員同士コミュニケーションを図り案を出し合っている。	毎月職員会議をして運営に関する議題を話し合い、ケアカンファレンスも行なっている。職員の変動も少なくお互い気心の知れた仲間であり定着率が良い。社長もよく来てくれるし、息子さんもこの職員なので、相談しやすく連携がよく取れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は個別の相談を受け向上心を持てるように心がけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内外の研修で自主的に資質の向上を持ち自己啓発を重点に進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	情報交換の施設があり連絡を取り合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期入所の方にはコミュニケーションを密にして他入居者と職員との信頼関係が持てるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族からの相談には耳を傾け入居者の状態を細かく伝えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の思いと利用者の状況を確認し合い、改善に向けた必要なサービス提供に心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の思いを時間かけて聞き理解し苦しみ喜びをスタッフと共有している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃の状態を家族に報告し、入所者、職員の思いを家族に伝え協力関係が築けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人など施設へ遊びに来ていただき交流ができています。正月には息子宅へ外出もする。	家族・親族・友人等の面会も多く、いつでも訪問しやすい環境を整えている。近くの「万富の郷」との合同イベントでの交流も多く、お互いに顔馴染みの関係であったり、家族と外出・外食等をして絆を深めている人もいますので、それぞれの関係継続を大切に支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気が合う同士で過ごす場面づくり、みんなで楽しく過ごす時間を支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	情報提供を得て連携に心掛けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中で本人の意向を見出している。心身の状況の違いなど個人を尊重した介護法で対応している。	意思疎通が出来、自分の想いや希望をはっきり言う人が多く、日々の関わりの中で聞き取った訴えや会話等を記録に残して共有するようにしている。その中から抜粋した思い(ニーズ)をケアプランにつなげようと目標達成計画に上げて取り組んでいる。	介護記録は利用者の最新の情報や希望をケアプランへ反映させるものであり、その人の今までにない行動や訴えについてポイントを掴んで分かりやすく記録に残す事も大切であり、「5W1H」を意識しながら具体的に記述して下さい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や担当ケアマネージャーより情報を収集し入所してからの対応を検討している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	それぞれの性格の中にあわせ無理のない生活を送って頂いている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	身体、精神状態を話し合い、家族と職員と相談して最善な計画で実践している。	本人・家族の意向を基に、日々の介護記録を参考にしながら職員間で話し合っ、身体面だけでなく精神面「心のケア」も意識しながらケアプランを作成するように努めている。定期的なモニタリングや状態の変化に応じて見直しを図り、現状に即したケアプランになっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	朝夕の申し送りのとき心身状況、会話などの情報を伝え介護計画、実践に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	体調の変化を看護師に相談して、かかりつけ医に連絡してアドバイスをもらい受診、往診、薬受けの代行をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	二ヶ月に一回の運営推進会議で夏祭り、クリスマス会など地区の方々に行事の協力、協働で楽しみを支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の希望されるかかりつけ医になっている。家族の受診同行、また職員も同行することもある。かかりつけ医と連携し適切な医療が受けられるようにしている。	従来のかかりつけ医を主治医としてもらっており、それぞれの主治医の往診もある。訪問看護・訪問歯科の利用は今は無いが、必要があれば利用可能である。「万富の郷」と兼務の看護師が職員として非常勤で勤務しているので、医療と介護の連携も出来、安心できる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護、介護は密に連携が取れて十分な支援ができています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院との情報交換はできている。対応可能な段階で早期に退院ができるよう医師と相談する機会をもっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医師と家族又は職員で連携をとり納得できる介護、支援をしている。	最近、開設当初からの利用者の看取りをした。高齢であり自然に任せたケアで職員の見守る中、穏やかな最期を迎えた。ホームで葬儀の手配をし、県外から駆け付けた親族からも感謝の言葉をいただいた。職員も皆、初めての経験であり、貴重な体験になった。今後も本人・家族の希望に添って出来る限りの支援をしていこうと思っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルは掲示し会議や休憩時間も職員同士で話し合いはできている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に二回入所者とともに訓練している。運営推進会議で地区の協力をお願いしている。	定期的に避難訓練をしているが、この地域は水害の心配はないそうなので、主に火災による消火・避難訓練が中心になっており、ホームは平屋である為、とりあえず外に避難する事としている。火災発生時の対応マニュアルも作成している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の性格を把握し言葉かけに心掛けている。	自尊心を傷つけない、その人を尊重する態度を崩さない事に留意して、利用者とコミュニケーションを取りながら信頼関係を築くように努めている。トイレへの声掛けにも羞恥心やプライバシーに配慮するように心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望に合わせ要望を聞き職員と相談して対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望に合わせ要望を聞き職員と相談して対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装など本人と相談しながら季節感を考慮している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の野菜を使い献立をたて、食べたいものを聞きメニューに入れている。野菜のしょうやくなど出来る事を手伝ってもらっている。	今日は雛祭り誕生日会を併せた昼食会だった。それぞれの食事形態に合わせてペースト、刻みはあるが、「美味しいなあ」と言いながら全介助1名以外は皆さん自分の箸やスプーンで食べていた。食後の下膳をする人もいて出来る事は手伝ってもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量など経過記録に記入し把握している。体調に合わせて刻み、粥、ペーストなどで工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入所者の状態に応じた歯磨きの声掛け誘導している。入れ歯洗浄も実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄票を付けて個人のトイレサイクルを把握して声掛け誘導して失敗しないよう心掛けている。	殆どの方が紙パンツにパットであり、今は布パンツ使用の人はいない。個々の排泄パターンを把握して、タイミングを見計らって声かけをしてトイレに誘導している。夜間用にポータブルトイレを使用する人もいるが日中は全員トイレで排泄している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取をしっかりともらう声かけ、排便体操などに取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	二日に一回は入浴していただいている。希望も聞き体調に合わせた入浴方法にしている。	週3回を基本としているが、拒否のある人には3回に1回は清拭にする等、その人に合わせた対応をしている。重度化が進みシャワー浴の人が多くなったが、マンツーマンでコミュニケーションを取りながら楽しく入浴してもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	心身の状態に応じ休憩をしていただき、夜間ぐっすり眠れるように日中の活動に配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルで把握できるようにしている。用法、用量の変更の際は主治医、看護師、職員と連携支援をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々にあった得意なことを発揮してもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブ、外出したり家族の協力ができている。	近くの熊山英国庭園へのドライブツアーには毎年出かけており、各種の花を鑑賞し自然に触れ合っている。お花見会には家族の参加もあり、満開の桜を楽しんだ。家族と外出や外食に行く人もいて個別支援もしている。天気の良い日は外で日光浴をしたり散歩に出かけ気分転換をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	欲しいもの等訴えがあれば家族に依頼し買ってもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人からの訴えがある際は電話を使用してもらっている。家族、友人からの手紙等もある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある置物や貼り絵などを入所者と一緒に作成している。	利用者の重度化が進み、リーダー的な人の新旧の交代はあるが、また以前のように歌声が響き、おしゃべりが弾む活気あるリビングが復活していた。明日は3月3日の雛祭り。職員手作りの冠を被って衣装を身につけ、一人ひとり写真を撮り、いつもより華やいだムードが漂っていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファー、テーブルを置き、居場所の工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	その人らしく写真や置物を飾り心地よい空間、雰囲気作りをしている。	その人の症状によって畳み敷きに布団のみで何も置かないシンプルな居室もあれば、塗り絵作品を展示したりテレビや家族の写真、使い慣れた馴染みの物を持ち込んで自分らしい部屋作りをしている人もいる。どの部屋も清潔に保たれ居心地の良い環境になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー、手摺、スロープなどを設置している。		